

## あとがき

この場所についての説明はすべて終わりましたが、なお最も重要な事実を述べなければなりません。

『あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。』（マタイ福音書 28:6）

ヨセフの園で起こった出来事は、全歴史上最重要な出来事であって、この園から発した復活の知らせは、この上なき福音として、全人類に伝えられました。イエスの墓の秘密は、その高貴さにあるのではなく、その空虚さにあるのです。

この最後の告知に触れたとき、イエス・キリストの復活にもはや無関心であることは出来ません。

『キリストは、福音を通して不滅の命を現してくださいました。』（第二テモテ 1:10）

『死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、私たちの主イエス・キリストです。』（ローマ 1:4）

『そして、キリストが復活しなかったのなら、私たちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。』（第一コリント 15:14）

アリマタヤのヨセフの墓がどこにあったかを厳密に証明することは、今後とも出来ないかも知れませんが、その位置はこの場所からそう遠くなかったに違いありません。

大切なのは、場所についての教理的な伝承でなく、あの方（イエス・キリスト）に対する敬虔な信仰であります。皆様は、園を出る前に、私たちの主イエス・キリストの復活を心から感謝する祈りを、神に捧げて下さい。そして、私たちが死の恐れから解き放ち、復活日（イースター）の真理と喜びの中に留まらせて下さるキリストの力を、新約聖書からもっと深く学ぶ決心をなさいますように。

『ただ、「天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、「栄光と栄誉の冠を授けられた」のを見えています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです。ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした。』（ヘブライ 2:9, 14, 15）

## エルサレム 園の墓の散歩

### 小史

#### 園

この史跡が取得されたのは1894年でした。同時に、「多くの人によってアリマタヤのヨセフの墓と園であると信じられたこの史跡、エルサレムの城壁の外にあるこの墓と園を、聖なる静寂な場所として保存するために」、英国のロンドンに本部を置く『園の墓協会』（the Garden Tomb Association）が設立されました。

この協会は、園の維持管理と奉仕活動に対する全面的責任をもっております。園は週日には毎日定時に公開され、日曜日には午前 9時から訪問者の方たちと共に守る英語による礼拝を行っております。

#### ゴルゴタ（ゴードンのカルバリ）

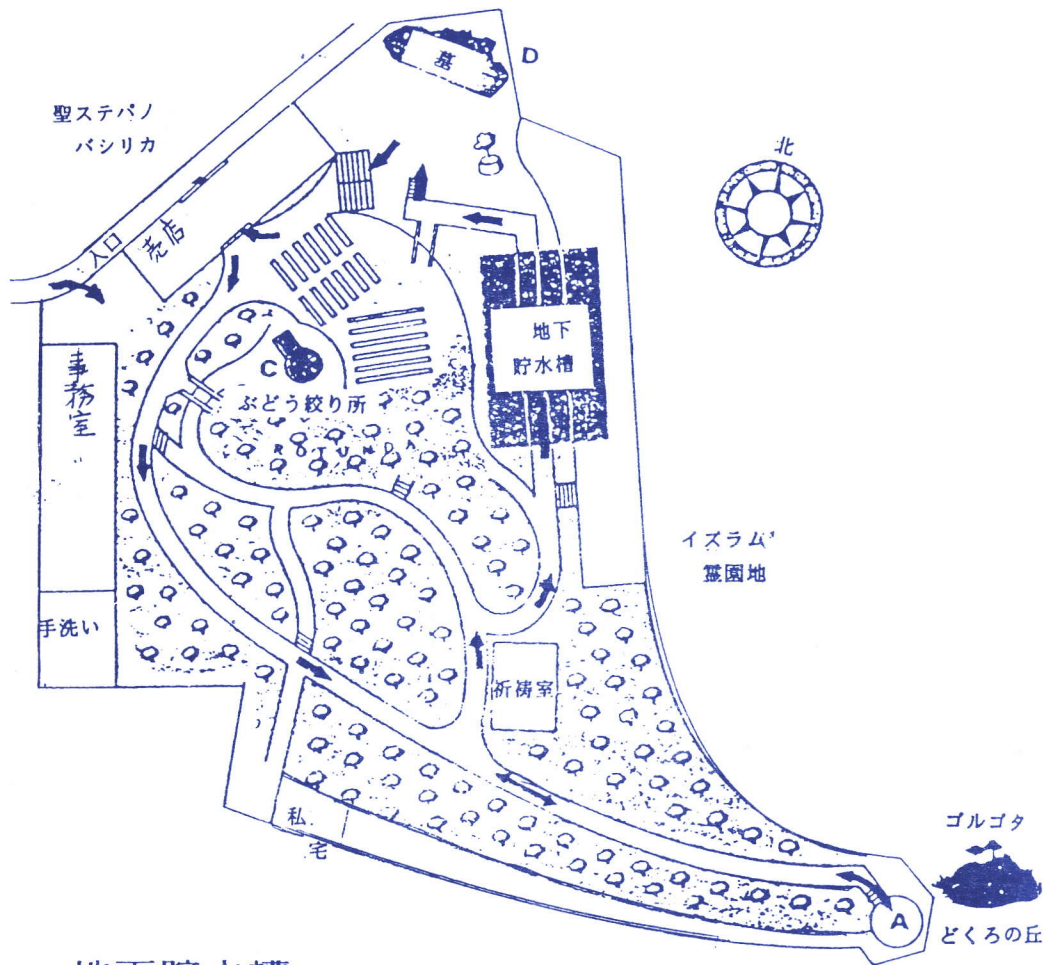
園の一番奥に、見晴らし合に上る階段があります。そこからは左手に、バス・センターの先に、「髑髏の丘」のごつごつした「顔」が見られます。また右手には、エリコ街道の向こう側に、エルサレム旧市街の城壁がそびえています。1882年に、聖書学者であり、著名な英国軍人でもあったゴードン將軍は、この場所こそ主イエス・キリストが十字架に付けられた場所であろう、と確信するに至りました。

新約聖書は、十字架刑の場所をゴルゴタと呼んでいますが、それは「髑髏の場所」という意味で、ラテン語ではカルバリと言います（マルコ福音書 15:22）。

多くの人々は、この岩の露頭部が人間の頭蓋骨の様に見えることを認め、新約聖書の記す十字架刑の場所と関係があるのではないかと考えています。土地の言い伝えによれば、この場所は「ベイト・ハセキラ」（Beit ha-Sekilah）、つまり「石打ち刑の場所」と言われて来ました。近くにある聖ステファノ教会は、石打ち刑による最初のキリスト教殉教者の死を記念するバシリカ礼拝堂の遺跡の上に建てられたものですが、この地域がレビ記 24:16 にあるユダヤ教の律法の定める公衆処刑の場所として使用されて来たことを、示していると言えましょう。ローマ当局はこのような場所を死刑場にしていたと考えられます。

新約聖書の多くの史跡の確認は、キリスト時代のエルサレムの城壁の正確な位置の確定に基づかねばなりません。この問題に関する過去一世紀にわたる論争も、確かな結論を出すに至らず、多くの推測を残すに止まっています。この問題の解決は、「カルバリ」の位置確定のために決定的な意味をもちます。なぜなら、十字架刑の執行が町の城壁の外でなされたことには、疑問の余地がないからです。

多くの学者は、聖墳墓教会が城壁の外側にあった可能性を主張しており、最近の考古学的見解でも、その位置は紀元30年代のエルサレム市街の北限であった現在のダマスコ門の付近であろう、と考えられています。この見解は、オットー・テニウス（1842）、オーベルスト・カンダー（1875）、そしてゴードン將軍（1883）らが主張して来た、「髑髏の丘」の信憑性を高めるものです。



### 地下貯水槽

『イエスが十字架につけられた所には園があり』（ヨハネ福音書 19:41）

キリストの時代、ここがオリーブ果樹園であったということは、いくつかの貯水槽の発見によって明らかです。それらの貯水槽の一つはとて大きく、紀元一世紀もしくはそれ以前にさかのぼります。それは、歩道の下約12フィート（3.65メートル）の、東の壁際に設けられてあり、ほぼ 20万ガロン（908トン）の雨水を溜めることができ、年間八か月に及ぶ乾期の間、大きな農園を潤すのに十分なものでした。また、精巧なブドウ絞り器を、園の正面入り口を少し入った所に見ることも出来ます。これは1924年に発掘されたもので、この付近にブドウ園のあったことを示しています。

### 墓

墓が最初に発見されたのは1867年でしたが、1891年までは発掘されませんでした。この年に著名なコンラッド・シック博士が図表入りの報告書を作成し、それが1892年の「パレスチナ探究基金四季報」四月号に掲載されました。

新約聖書の記事によると、アリマタヤのヨセフの墓には次のような著しい特徴がありました。

- 1) イエスが十字架につけられた場所の近くにあった。（ヨハネ福音書19:42）
- 2) 園の中にあり、岩をくりぬいて作られた、裕福な人の墓であった。（マタイ福音書27:60）
- 3) 弟子たちが、外から墓の中をのぞき込むことが出来た。（ヨハネ福音書20:5）
- 4) 墓の入り口は、大きな石を転がして、蓋をした。（マタイ福音書27:60）
- 5) 墓の中には、数人が入れる空間があった。（ルカ福音書24:1-4）
- 6) 新しい墓で、古い墓を修復したものではなかった。（ヨハネ福音書19:41）

サンヘドリンの議員であったアリマタヤのヨセフは、イエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、『自分の新しい墓の中に納めた。』（マタイ福音書27:60）

この付近の墓の発見は、世に騒がれる特別の事件ではありませんでした。すでに多数の墓が発見されており、この付近はかつてのエルサレムの大埋葬地区であったことが明らかだからです。しかしそれにもかかわらず、古代の死刑場に隣接し、ブドウ園の中に位置するという特別な墓が発見されたとすれば、このような、墓、刑場、園の三つがより糸のように一つになった可能性の存在は、無視することのできないものです。園の墓は、特別な関心を引き起こすものです。1970年に、著名な考古学者であった、故カテリーナ・ケニヨン卿夫人は、「これは、紀元一世紀頃の典型的な墓である」と公式に述べました。

おそらく、キリストの埋葬の最も特異な点は、キリストが罪人として処刑されたので、通常の埋葬の尊厳ある葬りを受けることは当然不可能であったと思われるのに、キリストの遺体は「辱め」から救い出されて、最高級の墓に葬られたという事実でありましょう。

そのようなことの起こる確率がいかに低いかは、コンピューターを使えば算定できるでしょう。しかし、旧約聖書の『救世主』預言が如何に重大な意味をもつかを示すためには、そのような先端技術は無用です。

『その墓は神に逆らう者と共にされ、富める者と共に葬られた。』（イザヤ書 53:9）

### 初期キリスト者のこの場所に対する畏敬の念を示す証拠

- 1) 墓の壁の十字架（内部）。
- 2) 墓の正面に刻み込まれた錨の印（初期のキリスト教のシンボル）（外部）。
- 3) 墓の前に建てられていた、教会と思われる建物の跡。
- 4) 墓の外側にある（洗礼槽と思われる）岩底の形。